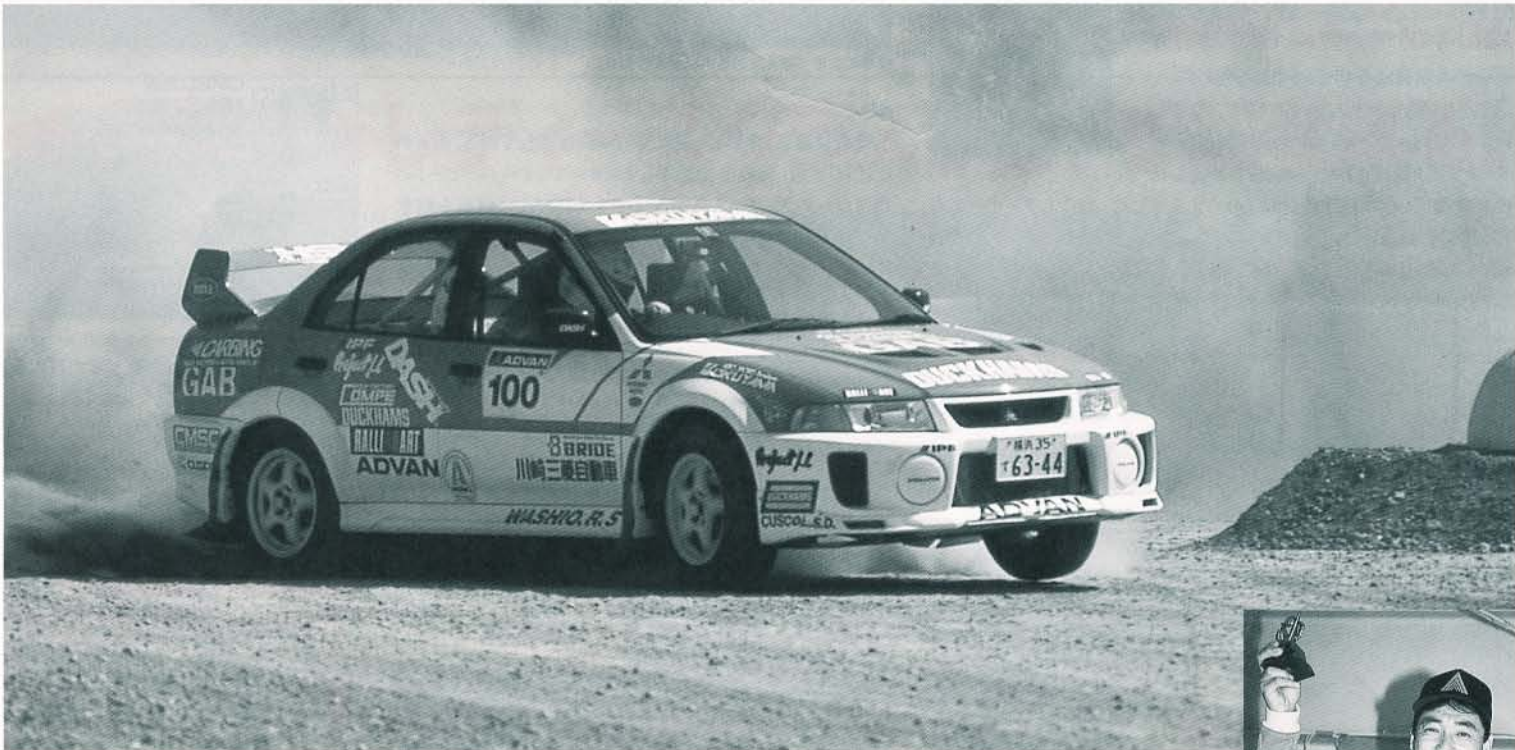


全日本ダートトライアル
第3戦

AIVクラスでCMSC勢大活躍! 宝田 芳浩選手 CMSC 札幌 エボVで逆転優勝!



見事な逆転優勝。笑顔で表彰を受ける宝田選手(右)と激走するエボV(上)。

'98全日本ダート選手権第3戦「トライアル・ド・ニッポン'98」が、5月31日福島県二本松市の「SSパークサーキット」で開催されました。コースは高低差が無くフラットでハイスピード、かつゴール直前には連続ターンも設けられた設定。当日の天候は晴れでした。

36台が出走のAIVクラスには、デビュー以来注目を集めるランサーエボVが出場。第1ヒートでは4番手タイムとなっていたエボVのCMSC札幌・宝田芳浩選手が、第2ヒートで見事、逆転優勝を果たし

た。2位にもエボVのCMSC群馬・荒井信介選手が入り、エボVが1-2フィニッシュを達成。さらにエボIIIのCMSC岐阜・三枝光博選手が3位入賞。5、6位にもCMSC栃木・赤羽政幸選手、CMSC岐阜・榎田正文選手が入るなど、CMSC勢大活躍の結果となりました。

また、レディースクラスでCMSC浜松・西川美佳選手が2位に、DクラスでCMSC群馬・古澤稔久選手が3位に入賞しています。



全日本ダートトライアル第3戦CMSC入賞者(3位以上)



CMSC群馬
荒井信介選手
AIVクラス2位



CMSC岐阜
三枝光博選手
AIVクラス3位



CMSC群馬
古澤稔久選手
Dクラス3位



CMSC浜松
西川美佳選手
レディースクラス2位



全日本ダートトライアル
第1戦

小出久美子選手

CMSC
大阪

レディースクラス優勝。

全日本ダートトライアル
第2戦

藤原雄一郎選手

CMSC
大阪

AIIIクラス優勝。

第1戦

'98全日本ダート選手権開幕戦「RASCALスプリングトライアルin三井」が、4月19日福岡県大牟田市「三井・三池オートスポーツランド」で開催されました。今シーズンは車両規定が大幅に変更。開幕戦とあってまだまだ試行錯誤ながら、各クラス規定内の改造を試みていました。参加台数の半数を占めた三菱勢でしたが、その中、レディースクラスではCMSC大阪・小出久美子選手が優勝。今季の活躍が期待されます。またCMSC大阪・藤原雄一郎選手がAIIIクラスで3位に入賞。DクラスでもCMSC群馬・古澤稔久選手が3位、CMSC大阪・秋間忠之選手が4位に入っています。

CMSC大阪 小出久美子 全日本ダート第1戦優勝記

全日本参戦は今年で15年になりますが、「三井・三池オートスポーツランド」の新しいコースになってからは、'94年度的全日本ダート第1戦にランサーエボIで優勝したのが最後で、それ以後優勝はありませんでした。今年もランサーエボVは間に合わないし、慣れないエボIVよりは、慣れているエボIIIでと思い、エボIIIで参戦しました。1本目、2本目ともクラスベストタイムでインプレッサバージョンIII、IVを押さえ、優勝という結果を残す事ができ



今年の活躍が期待できる小出選手の走り。

ました。

それに加え、今年も一緒に全日本に参戦している、主人のCMSC大阪・秋間忠之選手もランサーで、オーバーヒートの為スローダウンゴールながら、Dクラス4位という成績を残す事ができて、とてもうれしかったです。これからも夫婦仲良く、ランサーで全日本ダートトライアルにチャレンジしていきたいです。



CMSC大阪
秋間忠之選手
第1戦Dクラス4位

第2戦

'98全日本ダート選手権第2戦「98信州ダートトライアル」が、5月17日、長野県「スポーツランド信州」で開催されました。「スポーツランド信州」は杉林の斜面を切り開いたアップダウンの激しいコース。CMSC勢ではAIIIクラスでCMSC大阪・藤原雄一郎選手がトップタイムを記録し、'89年以来、実に9年ぶりの全日本で勝利となりました。CIIIクラスではCMSC山形・八島功敏選手が2位となり、初めての上位入賞を果たしました。また、AIIクラスでCMSC岐阜・篠田大作選手、DクラスでCMSC広島・河内渉選手がともに3位に入っています。

CMSC大阪 藤原雄一郎 全日本ダート第2戦優勝記

本年度より永年戦い続けてきたAIVクラスから、AIIIクラスのC83Aミラージュにクラス変更しました。注目度の高いAIVから移行するのはとても寂しく、また、もしAIIIで結果が出せなかったらどうしようという不安から、決断するのに勇気が必要となりました。第1戦は車のセッティングが間に合わず、2トライ目ベストながら結果は3位となりました。

今回の第2戦は東京から比較的近い長野県ということで、セッティングも十分に行い、事前に開催されたC地区戦にも優勝して、万全の体



クラス変更で結果を出した藤原選手のミラージュ。

制で臨みました。当日は天気も良く、コース状態も良好で、余裕を持ったドライビングができました。結果は2トライ共にベストタイムを記録することができ、大満足しています。何と'89年の開幕2連勝以来9年ぶりの全日本優勝とアナウンスされてしまい、何だか恥ずかしいのと同時に、優勝の感激を思い出すことができました。サービスのメンバー、スポンサーの方々、仲間のドライバーなど数多くの方から握手を求められて、最高の気分を味わうと共に、今年のシリーズも見えてきたような気がします。まだ7戦残っているので、ベストを尽くして良いシリーズにし

コートの連続コーナー ⑨

CMSC島根
古藤 浩美



全日本ダートトライアル第2戦CMSC入賞者(3位以上)



CMSC山形
八島功敏選手
CIIIクラス2位



CMSC岐阜
篠田大作選手
AIIクラス3位



CMSC広島
河内渉選手
Dクラス3位



全日本ラリー
4輪駆動部門第3戦

Bクラス

CMSC
道北

鎌田豊選手連勝!

全日本ラリー
4輪駆動部門第4戦

Bクラス

CMSC
鹿児島

中尾晃選手全日本初優勝。

第3戦

'98全日本ラリー(4輪駆動部門)第3戦「98ACK SPRING RALLY」が4月25,26日、大分県田代郡「オートポリスサーキット」をスタート・ゴールに開催されました。「オートポリス」サーキットステージでのSSに続くロードステージのコースは、幅が狭い林道で、例年リタイヤ続出の荒れた路面。また当日は、所々で霧も発生し見通しの悪く、中々でのラリーとなりました。

Bクラスは今回も参加車全てがミラージュとなりました。前戦の今季初優勝で勢いに乗るCMSC道北・鎌田豊選手がスタートのサーキットステージでトップに立ちます。鎌田選手は続くロード第1,2ステ

ジ、最後のサーキットステージまで全てのセクションをパーフェクトに制し、向かうところ敵無しといった感で、今季2勝目を挙げました。2位には地元九州のCMSC鹿児島・三苫和義選手が入りました。

CクラスではランサーエボVがデビュー。そのエボV勢のCMSC鹿児島・山口修選手が2位、CMSC札幌・奴田原文雄選手が3位、CMSC愛知・松井孝夫選手が5位に入り、今後の戦いが期待できる活躍でした。



連勝の鎌田選手無敵の走り。



第4戦

'98全日本ラリー(4輪駆動部門)第4戦「MCA BARU'98」が5月23,24日、大分県大分郡庄内町「JA大分経済連」をスタート、大分県直入郡「久住高原・コテージ」をゴールに開催されました。2つのステージでのオールターマックラリーとなった今回。第1ステージは曇りでしたが、夜間の第2ステージでは霧雨となりました。

Bクラスではここまで2連勝と波に乗るCMSC道北・鎌田豊選手が、第1ステージでトップに立ったものの、霧中の第2ステージSS8で2番手に後退。代わって

トップに立ったのはこのSS8でトップタイムを出した、地元九州CMSC鹿児島の中尾晃選手。中尾選手はこのまま逃げ切り優勝。鎌田選手、今回は2位のフィニッシュでした。

前戦、ランサーエボVが活躍したCクラスでは、今回もCMSC鹿児島・山口修選手が2戦連続の2位。CMSC札幌・奴田原文雄選手が同じく連続の3位に入りました。



絶好調の鎌田選手を押さえて見事優勝の中尾選手の快走。



全日本ラリー 4輪駆動部門 第3,4,5戦 CMSC参戦メンバー

CMSC鹿児島 三苫和義選手
第3戦Bクラス2位
第4戦Bクラス4位
第5戦Bクラス4位



CMSC鹿児島 山口修選手
第3戦Cクラス2位
第4戦Cクラス2位
第5戦Cクラス5位



CMSC札幌 奴田原文雄選手
第3戦Cクラス3位
第4戦Cクラス3位
第5戦Cクラス2位



CMSC愛知 松井孝夫選手
第3戦Cクラス5位



CMSC埼玉 田口幸宏選手
第3戦Cクラス8位



CMSC浜松 菅野正之選手
第3戦Cクラス10位
第5戦Cクラス6位



CMSC帯広 小林康弘選手



第5戦
優勝

道北・鎌田豊選手3勝目



'98ミラージュカップ
東北シリーズ第1戦

高橋しげる選手

CMSC
仙台

優勝。シリーズチャンプ目指し、好スタート。

5月23,24日、'98ミラージュカップ・東北シリーズの開幕戦が宮城県「スポーツランドSUGO」で開催されました。予選は晴れ。決勝もドライコンディションで行われました。予選でCMSC仙台・高橋しげる選手はポールポジションを獲得。以下7番グリッドまでが高橋選手と同じ1分40秒台を記録します。

決勝は終始テール・トゥ・ノーズの戦いでしたが、「タイヤが暖まる3周目までは無理をせず、4周目からアタック開始」の作戦通り、一時3番手まで下げたものの、すぐに挽回。6周目の第1コーナーでトップに立ちます。その後も2番手選手を押さえ、開幕戦を見事優勝で飾りました。昨年まで2年連続でシリーズ2位の高橋選手。周囲の期待も大きいようで、今までに無いプレッシャーを感じた開幕戦だったようですが、「今年こそチャンピオンを手に行けるよう頑張ります」とのコメント通り、幸先の良いスタートとなりました。



見事、開幕戦を制した高橋選手。

CMSC栃木 赤羽政幸

ニューゼaland・インターナショナル・オート・ヒルクライム参戦記

第1回大会、記念のクラス優勝。

去る4月10日から13日にかけて、ニューゼaland南島のクイーンズタウンで行われたヒルクライムレースに参加しました。コースはスキー場へのアクセス道路を使用した、全長14.5kmのフラットなダートで、126のコーナーがあり、標高3500フィートまで駆け上がりします。昨年のラリーオーストラリアでエンジンが壊れたエボIIIは、今回のイベントにエントリーするため昨年のうちにニューゼalandに送っており、イベントに間に合わせて修理も済ませてもらっていました。久しぶりにエボIIIに乗って、まずミッション、デフ、ブレーキのチェックをしました。調子は良く、デフのチャタリング音がひどいのでオイルを交換してもらっただけで本番に備えることになりました。

レッキは5回、レンタカーでノーマルスピードで走り、ベースノートを作りましたが、本番ではナビゲーターがいる訳ではないのでコース図と首っ引きでコーナーを覚える努力をしました。路面は丸和のダートコースの様でした。

10日に午前、午後と2回の本番車による練習がありました。最初はスピードが速いせいか覚えていたはずのコーナーがあやふやになったりしましたが、タイム的には悪くなかったので午後はいい感じで練習できました。翌11日も午前練習1回。午後は予選でしたが予備のタイヤが無いので、予選は3,4分山になってしまったタイヤを使用。そのせいかスライドし過ぎてテールを溝に落したりしましたが、頑張って予選はトップで通過しました。

1日おいて13日の決勝は1万人位の観客があり、軽飛行機やレースをスタートからゴールまでチェイスする観戦用のヘリコプターが何機も飛び交う華やいだ雰囲気でした。チームの皆の期待もあるのでそれに応えたいと思って最後まで走りました。結果はクラス優勝、総合8位。ゴールでは走り終えた選手達がいって、ラリーともダートとも違う感動



記念すべきクラス優勝を果たした赤羽選手の雄姿。

がありました。日本からはPerfectTVの取材もあり、第1回大会でクラス優勝でき記録が残せたことは非常に良かったと思います。サポートしていただいたスポンサーの皆様や現地スタッフのお陰と心より感謝しております。

スーパー耐久シリーズ'98
クラス2

小川日出生選手 CMSC山形 第2戦3位、第3戦2位。

川口法行選手/添田正選手 CMSC栃木 第2戦4位。

スーパー耐久シリーズ'98の第2戦「とうようぐーぶかっぶSUGO 500km耐久レース」が4月11,12日、宮城県「スポーツランドSUGO」にて開催されました。開幕戦からクラス1に迫るその速さに注目を集めたランサーエボV勢からは、CMSC山形・小川日出生選手組がクラス2で3位入賞。さらにCMSC栃木・川口法行選手/添田正選手組も同クラス4位に入る走りを見せました。



4位入賞の川口・添田チーム。

続く第3戦。5月16,17日に鈴鹿サーキットにて開催された「SUZUKA SUPER NI-500km」でもCMSC山形・小川選手組は2位でゴールしています。



CMSC山形 小川日出生 スーパー耐久シリーズ参戦記

今年からランサーエボVでの参戦を決めたものの、車両の製作が第1戦には間に合いませんでした。地元、菅生で開催の第2戦。4月10日にシェイクダウンを予定していましたが、ホイールも届かずディスクパッドも無し。不安材料いっぱい。とりあえず「RSオガワランサー」はピットロードを出て行きましたが、すぐエンジントラブルでピットイン。この日の走行は終わりです。11日の予選はこんな訳で足廻りのセッティングも決まらず、1位からは6秒も離され、クラス12台中9番手のポジションとなってしま



第2戦3位、第3戦2位。優勝の期待がもてる小川選手の活躍。

ました。実に情けない。これがプライベートチームの現状です。過去のデータをもとに大幅に足廻りを変更。決勝当日を迎えました。

朝のフリー走行ではクラス3番手のタイムをマーク。何とか完走したいと皆、必死でした。決勝は前半からクラス4番、3番をキープし、ノントラブルで快調に走行。ラスト1周残して3番手がエンジントラブルで戦列を去り、ゴールしてみれば総合6位、クラス3位をゲットすることができました。初陣で表彰台に上がれたのは、信頼性の高い三菱車のお陰と感謝しています。

続く第3戦もこれまた整備不良のまま鈴鹿へ遠征することに…。36台中15台がクラス2という激戦クラスで車種もいろいろ、強敵ばかりです。激しいデッドヒートの末、総合4位、クラス2位でゴールすることができました。ラリーアート様からの数々



のアドバイスとご支援には厚く御礼を申し上げたいと思います。今回はCMSC高根の岡本メカニック、伊達メカニックの協力を得ることができ、大変助かりました。ありがとうございました。次回第4戦は英田サーキット、第5戦は十勝サーキットの予定です。CMSC各支部の皆さん、応援、ご協力、宜しくお願いします。

CMSC青森 5月24日
CMSCジムカーナin青森

10年のキャリアで余裕の進行。

1998年7月に第1回CMSC青森ジムカーナ練習会を開催以来、公式戦26回、練習会2回と28回の開催を数えるCMSC青森のジムカーナ。今年の第1戦はJMRC北東北シリーズ第2戦として、新緑が目に優しい岩木山麓にある岩木山スキー場駐車場で開催しました。10年間ジムカーナの開催を続けてきましたが、第1回の練習会ではわずか60台だった参加台数も、回を重ねた今回は過去最高の93台を数えました。当クラブ、ジムカーナのリーダーである小館久を中心に、レギュレーションの作成、発送、受付開始、会場の清掃等事前準備も順調に進み、当日を迎えました。

コースの設定は、若手のホープ久保田明が担当。セッティングの良さもありミスコースも少なく、参加者にも好評でした。競技運営は出走台数を考え、競技車2台をコースへ入れ走行させタイムロスを少なくし、予定通りのタイムスケジュールで競技終了。表彰式もたくさんの賞品を前にシャンペンシャワーを行うなど、和やかな雰囲気うちに終ることができました。

また、今回CMSC本部より久々に外川会長を迎え、クラブ員との懇談



久保田氏によるコース説明（左）と岩木山をバックの記念撮影。



やモータースポーツ談議にと、楽しい一日を過ごすことができました。多くのクラブ員やご支援頂いております方々のご協力を得ながら、これからも身近な楽しめるモータースポーツを続けていきたいと思っております。全国のCMSC会員の皆様、ぜひ一度青森へお越し下さい。お待ちしております。（CMSC青森 鶴ヶ谷慶市）



本部席での鶴ヶ谷会長（右）、外川会長（中）須賀氏（左）と。

CMSC群馬 4月29日
CMSC群馬トライアルin那須

レディースクラス新設。参加者募る。

CMSC群馬主催のダートトライアルは'98JMRC群馬ダートトライアルシリーズの開幕戦として、4月29日に丸和オートランド那須にて開催いたしました。車両規定変更のため、吸・排気系、エアスクープ、スポイラーなどの変更車両が多く見られました。また今シーズンより、群馬シリーズにレディースクラスができましたが、1台のみの参加と少々寂しい状態でしたので、今後女性ドライバーの方も多く参加していただきたいと思えます。

当日は祝日ということもあり、参加台数76台と若干少ないエントリーでした。毎年、CMSC群馬のイベントは天候が悪いのですが、今年は絶好のダート日和でした。コースは前半ハイスピード、後半テクニカルというメリハリが必要なコース設定でしたが、競技はスムーズに進行。エントラント、オフィシャルともトラブル無く、午前中には競技終了、午後1時には閉会式終了と、エントラントの皆様も早く帰宅ができたと思われます。最後になりましたが、開催にあたり協賛していただいたスポンサー各位、エントラント、オフィシャルの皆様、大変ありがとうございました。

(CMSC群馬 大谷昌弘)



岩田選手によるコースクリア（上）。開会式の模様（上右）とF2クラス表彰式（右）。



CMSC栃木 5月17日
スリーダイヤモンドジムカーナ

来場者、皆が楽しめるイベントを。

このたび'98スリーダイヤモンドジムカーナを主催しました。今回の参加台数は74台。多少ではありますが例年より台数も増え、クラブ員と競技参加者が共に協力し、非常に盛り上がりのある競技会を開催できました。

5月17日当日は朝から雨。クラブ員、参加者とも受付や競技準備に時間がかかり、予定スケジュール通り進行できるかどうか心配もありましたが、予定より15分遅れの午前9時15分より競技を開始することができました。初心者向けコースではありましたが、ハイスピードコースを設定したため、雨でのウェット路面に大半の競技者が四苦八苦しているようで、予想タイムよりも約10秒程遅れた記録しか出ないまま午前の部を終了。昼休みを利用し、我がクラブのスーパー耐久レース用ランサーVを使用しているタイヤ交換やドライバーチェンジ等のアトラクションを行いました。普段は実際に見ることのできないピット作業の様子に競技参加者および観客も興味を示していました。

午後には雨も上がりコースはドライとなり、競技者も午後の部に勝負を賭け、タイムを競いました。ベストタイムは1分こそ切れなかったものの、ほとんどの競技者が午前とは比べものにならないすばらしいタイムを出すことができました。

大きなトラブルもなく無事終了。参加者全員に賞品が渡るようにと考えたジャンケン大会や参加賞、そして恒例のアイスクリームの配布も好



下谷選手の走り（上）と三菱賞の表彰式（下）。

評で、来場した全ての人を楽しめるイベントになったと思います。モータースポーツの動員数が増えていくよう、今後もクラブ一丸となり企画をし、努力していきたいと思えます。初心者入門用のこのイベントを今後も続けていくつもりです。（CMSC栃木 川口法行）



CMSC島根 5月31日
CMSC島根チャレンジカップジムカーナ

気分は全日本!超高速バトル!

全日本ジムカーナ選手権が一週間後、同じ会場で行われるため、ここ岡山県備北サーキットには中・四国・近畿のトップドライバー10数名を含む83台が集結し、炎暑の下、熱い戦いが展開されました。特にコースは、タイムスケジュールが遅れるほど入念にコース査察・安全対策を施した、このコース始めて以来の(当クラブ調べ)超ウルトラハイスピードコース。テクニックと車のコンディション、それをコントロールするドライバーのソフトウェア(経験値と理性)の高度なバランスが要求されました。トライは限界で走るトップドライバーばかり続々コースアウト・脱輪という、



全日本選手も大挙、出場。(写真は谷森選手)



予想通りの大番狂わせ(?)の展開となりました。しかし、2トライ終わってみれば「お約束」の順位に落ち着き、その学習能力の高さには感心させられました。しかも壊れた車はクラブ員の3台だけというオチつきです。中でもJAFカップ3位男、アドバンGABランサーを駆る谷森雅彦選手の異次元の走りには、オフ

シャル、エントラント総立ちで魅了させられました。最後に、ちょうど届いたばかりの全日本戦用豪華表彰台をちゃっかり借用して、近年まれにみるデラックスな表彰式になったのは、涙なくて語れません(笑)。(CMSC島根 古藤浩美)

CMSC福島 5月17日
ダイヤスタージムカーナ

3年ぶりの地区戦主催に天の助け?

B地区シリーズ第3戦「CMSC福島ダイヤスタージムカーナ」はCMSC福島としては、3年ぶりの地区戦主催となりました。レギュレーション作りからJAFの申請など、久々の作業の面倒さに、仕事もそっちのけでほとんど大会準備に明け暮れること10日間。そして大会当日の朝、外は雨。暗〜い気分では会場のSSパークへ。クラブ員30名と、まずはミーティング

を行い、いざ雨の中へ。と思いきや、天の助けか雨が止み、空も明るくなってきました。これで全員気分良くオフシャルができるようになり、CMSC福島ならではの行き届いた(?)大会運営で、無事終わることができました。クラブ員一同ほっとした一日でした。ただ、当日朝の雨でのカメラトラブルにより、写真が撮れなかったことが残念です。(CMSC福島 須田行雄)

CMSC香川 4月19日
CMSCアストロトリアル

車両規則変更が影響。



AIIIクラス三木選手の走り。

四国地方選手権第3戦「98CMSCアストロトリアル」を香川スポーツランドにて主催しました。今回のエントリー台数は54台と非常に少ないものでした。四国の場合、車両規則が変更になった年はいつも、参加台数がガタッと減ってしまいます。

さて、我がクラブ期待の星、AIIIクラスの三木利夫選手は今回は3位でしたが、シリーズチャンピオンを狙ってがんばって欲しいと思います。(CMSC香川 白井 修)

'98チャレンジカップ

大阪、ダートラでポイントゲット。全開のスタート。

さあ始めました'98チャレンジカップ。大阪が秋間・小出コンビの活躍でポイントを大量ゲット。スタートから飛ばしています。個人部門は有力どころと新しい名前が入り交じっています。ゴールはまだ先。頑張ってください。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
大阪	909				909
福島	810				810
道北	522				522
広島	418				418
札幌	358				358
山形	319				319
浜松	295				295
香川	262				262
帯広	256.5				256.5
青森	253				253
島根	216				216
栃木	213				213
鹿児島	182				182
岐阜	162				162
岩手	115				115
埼玉	77				77
秋田	66				66
仙台	40				40
群馬	25				25
愛知	21				21
千葉	0				0

●ラリー・ドライバー部門

選手	所属	ポイント
鎌田 豊	道北	140
杉山 聡	道北	104
鷹野健太郎	道北	85
奴田原文雄	札幌	84
山口 修	鹿児島	72
中尾 晃	鹿児島	60
三苫和義	鹿児島	50
豊嶋郁雄	道北	32
二野下幸夫	広島	31

●ラリー・ナビゲーター部門

選手	所属	ポイント
川村知恵	道北	85
中村洋次	帯広	80
内藤修一	道北	52
梶山 剛	広島	31
山地英樹	香川	24
安藤朋司	岐阜	24
本島正和	浜松	20
神高 浩	香川	16
岩見浩紀	道北	12

●ダートトライアル部門

選手	所属	ポイント
秋間忠之	大阪	280.5
小出久美子	大阪	247.5
宝田芳浩	札幌	244
河内 涉	広島	190
藤原雄一郎	大阪	176
赤羽政幸	栃木	144
吉村 修	大阪	120
大泉 剛	福島	115
湯本 敬	山形	104
谷津良嗣	福島	104

●ジムカーナ部門

選手	所属	ポイント
工藤裕史	青森	130
宇野慶一	青森	97
高野 聡	福島	79
平山敦朗	浜松	76
渡辺 弘	福島	70
佐藤義隆	福島	60
須田行雄	福島	44
三崎朋弘	帯広	35
青沼達也	帯広	30
遠藤昌利	札幌	28

●レース部門

選手	所属	ポイント
小川日出生	山形	94
エド・ムラサキ	山形	66
高橋しげる	仙台	40
川口法行	栃木	20
添田 正	栃木	20
木下アキオ	山形	12

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
ポイント B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

A=全日本選手権(含むレディースクラス)
地方選手権(除くレディースクラス)
全海外FIA, ASN公認競技
但し、ラリーには各地区の最上級シリーズ
ダートトライアルにはオールスターダートトライアル
ジムカーナにはJAF CUP'Sジムカーナ
レースにはミラージュカップ、スーパーN1耐久シリーズを含む
B=それ以外の競技会